

平成 25 年 8 月 20 日

報道関係各位

東京都世田谷区太子堂 2-16-5
株式会社 QLife (キューライフ)

**熱中症やハチ刺されなど、異常気象で医療機関の最前線にも異常が
内科医の 3 人に 2 人が熱中症患者を診察、うち 15%は「3 週間の入院が必要」な重症も
～猛暑で急増した症状【緊急医師アンケート】～**

月 600 万人が利用する日本最大級の病院検索サイト、医薬品検索サイト、医療情報サイトを運営する総合医療メディア会社の株式会社 QLife (キューライフ/本社: 東京都世田谷区、代表取締役: 山内善行) は、クリニックなどで一般内科の外来診療を行っている医師を対象に、2013 年夏の猛暑による熱中症などの健康被害状況について緊急アンケートを実施した。有効回収数は 243 名。インターネット調査で 2013/8/15～2013/8/16 に実施した。

回答医師による具体的な事例コメントなど、詳細な内容は QLife サイト内に掲載している。

<http://www.qlife.jp/square/hospital/story36096.html>

【調査結果概要】

◆3 人に 2 人の内科医師が熱中症患者を診察 うち 15%が重症

今夏、3 人に 2 人の内科医師が「熱中症患者を診察した」と回答。そのうち 15%の医師が「重症患者を診察した」と回答した。

◆内科医師 1 人あたり平均 13.5 人の熱中症患者を診察

医師一人あたりの症状別人数をみると、軽症が最も多く 10.4 人 (77.2%)、中等症が 2.6 人 (19.4%)、重症は 0.5 人 (3.4%) で、合計 13.5 人に上った。

◆「扇風機を使っても」「老人ホーム内でも」発症したり、「ダイエット」原因も

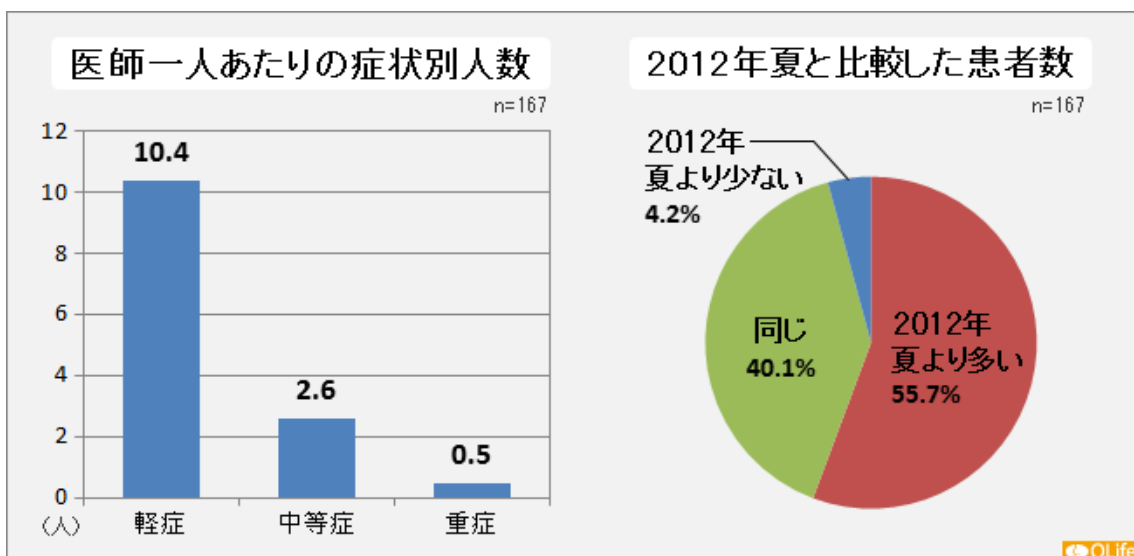
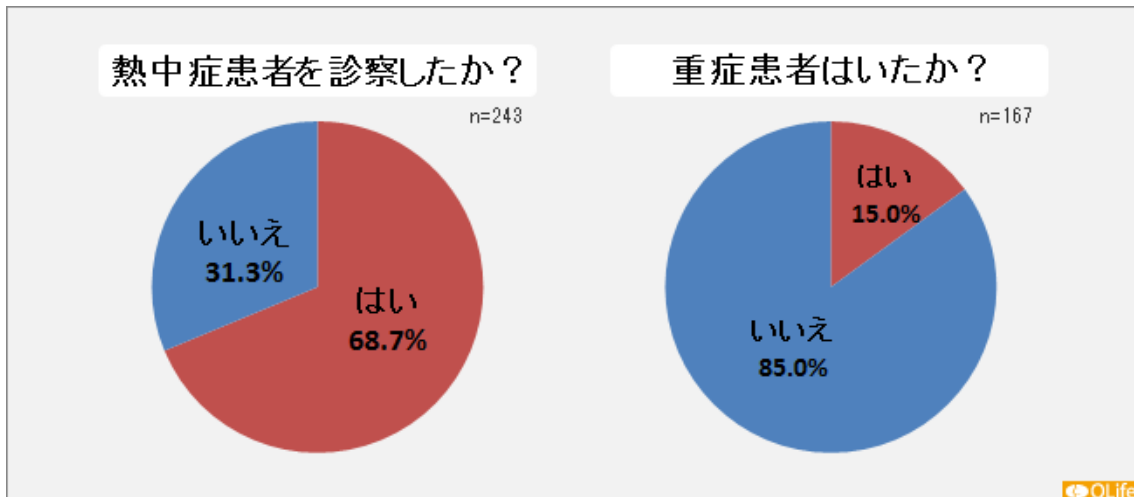
印象に残った患者例については、横紋筋融解症や腎不全に至る「重症」のケースや、扇風機をつけたり老人ホーム内にいたにも関わらず発症した「対策が機能していない」ケースがあった。また「水分補給不足」の原因として、「認知症」「嚥下障害」などのほか、夏休みの宿題のプレッシャーやダイエットが原因となるなど、熱中症の原因や症状が多様に広がっていることが分かった。

◆熱中症予防には、より一層の情報提供が必要

熱中症予防のために社会が取り組むべきことについて、最も意見が多かったのが行政やメディアによる「より一層の情報提供」を求める声だった。

◆熱中症のほか、ハチ刺されなど異常気象で医療機関の最前線にも異常が

熱中症以外にも、「(アナフィラキシーショックの危険がある)ハチ刺されの受診者が増えている」と 4%の内科医が回答するなど、異常気象で医療機関の最前線にも異常が起きているようだ。



▼調査主体

株式会社 QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1)調査対象: 外来患者を診療している一般内科の医師
- (2)有効回収数: 243 名
- (3)調査方法: インターネット調査
- (4)調査時期: 2013/8/15～2013/8/16



<会社概要>

■株式会社 QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 2-16-5 さいとうビル 4F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006 年 11 月 17 日

事業内容:健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

URL : [http://www.qlife.co.jp/](http://www qlife.co.jp/)

本リリースに関するお問い合わせ先:

株式会社 QLife 広報担当 田中

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : t-tanaka@qlife.co.jp
